

第23回「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました（2019/9/5）

テーマ：大規模放射線災害、生物学的被ばく線量推定、IoTによる核物質探索訓練システム
場所：東北大学医学部（宮城県仙台市）

2019年9月5日(木)に東北大学医学部6号館1階カンファレンス室にて、第23回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナー（主催：災害科学国際研究所「災害と健康」ユニット）を開催しました。今回は、産業医科大学産業生態化学研究所放射線健康医学研究室の盛武敬准教授をお招きして「大規模放射線災害初期対応のための新規生物学的被ばく線量推定法とIoTによる核物質探索訓練システムの開発」と題して講演が行われました。当日は当研究所 災害医学研究部門 災害放射線医学分野の千田浩一教授が司会を務め、約30名の方々に参加いただきました。

本講演では、①新規生物学的被ばく線量推定法の開発と題して、大規模放射線災害の発生後に用いられる従来とは異なる微量の生体試料を用いた被ばく線量推定法について紹介して頂きました。たった100 μ lの血液から抗酸化能を定量化し被ばく線量推計する、画期的な技術を駆使していました。②IoTによる核物質探索訓練システムの開発と題して、仮想線源を用いたリアリティのある訓練法の開発とその実施例について紹介して頂きました。具体的には、無線電波やBluetoothを用いることで仮想放射性物質を形成し、スマートフォンとモバイルWi-Fiを用いた探索や訓練例を実践的に行われていました。その後、フロアも交えて新規被ばく線量推定法の実践可能性や核物質探索訓練システムの病院防災訓練への展開可能性について、活発な討議がくり広げられました。



盛武 敬 准教授



会場の様子

文責：稲葉洋平（災害医学研究部門）